

厚岸湖・別寒辺牛湿原におけるドロクダムシ相と生態的特性の解明

向田ゆき子（広島大学大学院人間社会科学研究科）

【研究背景】

本研究は、食物連鎖において重要な位置を占めるドロクダムシ族甲殻類（Corophiini）の種多様性および生態的特性を明らかにすることで、生物学的な基礎的な情報を提供することを目的とした。本分類群の分類学的・生態学的研究は不十分であり、厚岸湖・別寒辺牛湿原やその周辺において本分類群が生息していることは明らかとなっていたものの、その種については明らかにされていなかった。本研究では、厚岸湖・別寒辺牛湿原およびその周辺で採集されたドロクダムシ族について、形態分類を行い、その種多様性を明らかにした。本研究によって得られる分類・生態情報は、ドロクダムシ族の進化に伴う生態の変遷を理解する上で重要であるとともに、厚岸周辺の生物多様性の保全や水産資源管理の基礎データとしても貢献することが期待される。

【対象生物】

本研究において対象にしたドロクダムシ族は、甲殻亜門軟甲綱端脚目ドロクダムシ科の分類群である。現在、日本から5属13種が報告されているが、多数の隠蔽種が存在が示唆されている（石丸 2003）。ドロクダムシ族は水底に棲管を作り、その中で摂食、交尾などの生活を送るという生態をもつが、棲管を作る基質には分類群ごとに異なることが知られている。

【研究方法】

厚岸湾、別寒辺牛湿原、厚岸湾の計13か所で行った。また、厚岸臨海実験所に所蔵されていた標本群についても調査を行った。

採集は湿原ではカヤックを用いた手網、それ以外では船舶を用いたエクマンバージ採泥器と小型ドレッジで行った。採集したドロクダムシ族は、実験室に持ち帰った後、顕微鏡下で形態比較を行った。

【結果と考察】

これまで厚岸町からは、ドロクダムシ科自体の報告はあったものの、ドロクダムシ族の詳しい種組成について報告は無かった。しかし、本研究により新たに3属5種が確認され、北方に分布する種を含むことから、国内の他地域とは異なる種組成を示す可能性が示された。さらに、報告書と展示用資料において厚岸に生息するドロクダムシ族の形態での識別に役立つ検索表を提供した。